

磐城水産新報

毎月十、廿、卅日發行
定価 一月十銭
廣告料 一行十銭
發行所 磐城水産新報社
印刷所 磐城水産新報社

賀正

昨年中は本紙創刊に際して各位の御理解ある御挨拶に預り恙なく順潮に成長しつゝある御悦を願ふと共に年頭に際し改めて御禮を申述べます。
私は新聞事業は初めての体験で在來の微を踏た丈けであります。茲に漸く半年を閉じ大なる、旬刊紙の欠陥も發見致しましたから、不日合理的な自然的な方法に改善したいと目下深慮中であります。
皆様の中には新聞関係者は悪へ人か又は怖しき特殊の人の如く接觸して居る方もあるようですが、其れは餘りに喰へ嫌へではないかと常に考へて居ります。



新聞紙其ものは皆様の機關として生れたのですから、より好く御利用を願へたいのです。新聞紙は世界の木釋として、樹つ以上最も厳正でなければなりません。樹つ以上携るものは權者にてらひ弱者におもねり私事の思想に左右さるべきものではないのです。何卒新聞其ものを御理解を願へたいのです。私は年頭に際し最も多事多端なるべき昭和四年を迎へ將に軍人が戦地に出征せる覺悟を以て厳正の二字をモットーとして粉骨砕心の努力を拂ふ覺悟であります一言以て年頭の辞といいたします。

元旦 主幹 伊藤 白潮

漁業發展と漁港問題

現在に於ても將來に於ても總工費の半分であるから大漁港發展上漁港の必要なるに助かるわけだ然して補助金は論議の要はない、明を受ける主体は縣となつて年度は縣に於ても小漁港修繕から縣經營にする必要の爲めに數萬圓を計上しがある。
此の種の漁港修築の希望しては從來大中漁港(小名は非常に多いので既に出願(程度)に對しては補助をは今でも満員以上に達して出して奨勵しておつたが小、本縣でも漁港の修築漁港二三十萬圓程度には必要なる所は多い縣國の其の道がなかつた。然し之補助を以て一日も早く完成れば落度であることは明でを期せねばならぬあるから農林省でも明年度 幸に縣でも國でも明年度に始めて此の小漁港補助をより小漁港に對する補助を計上して居る、其の額は九計上したることは誠に幸先十三萬圓である。補助率はのよきことである。

フリースピー

野崎長次郎君
現在小名濱中で眞の人格者筆者は常に思ふ。君の如き名譽心も欲しなく、偉がる人間としての典型者を求めたならば、野崎長次郎君を揚げるのを至當と思ふ。
野崎長次郎君は、この國事を淡く町政を談ずる、又君たるもの正に男としての爲め水産界の爲め努力一番御婚さんである。其致蜜な

謹賀新年

- | | | |
|------|-------|-------|
| 代議士 | 木村清治 | 比佐昌平 |
| 縣會議員 | 鷺清昇 | 古川傳一 |
| | 野崎滿藏 | 山崎吉平 |
| | 鈴木辰三郎 | 若松美三 |
| | 小野晋平 | 金成通 |
| | 安島重三郎 | 大平陸四郎 |
| | 兒玉萬平 | 佐川龜太郎 |
| | 中村主躬 | 小林元藏 |
| | 水野德次郎 | 鈴木榮 |
| | 鈴木富太郎 | 高木保 |
| | 立花雄七 | 河野嘉藏 |
| | 遠藤藤之丞 | 木村倉治 |

小名水濱産會社

支配人 平野直保君
船具附屬品一式、油類等を場よりも注文殺到して店前々たる發展を視、遠く他漁場を思はしむ。
本年の町議戦も目前に控へた、本會社は前社長野村材としての君周囲が座視し、町重大の秋君たるもの一身を顧みず一番本町の爲め出馬努力せよ。

銘酒 清
清水正宗
元讓屋
小名濱町中島
電話六二六番

小名濱漁業組合
立花邊 長合組
花勘 長務事
七哉

小名濱大敷事務所 郡司二郎 白井三郎
高久病院
院長 醫學士 高久忠
副院長 醫學士 赤羽清
藥局長 藥劑士 佐竹菊雄
磐城町平 電五二三番

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------|-------|-------|------|------|------|-------|-------|-------|------|-----|-------|------|-------|-------|
| 中野鐵之助 | 小野德藏 | 野崎長次郎 | 馬上德七郎 | 小野務平 | 立花雄七 | 小野晋平 | 野口竹次郎 | 小濱長太郎 | 江尻甚太郎 | 岡山重喜 | 藤社大 | 草野良太郎 | 堀越新平 | 松本德次郎 | 飯塚榮一郎 |
|-------|------|-------|-------|------|------|------|-------|-------|-------|------|-----|-------|------|-------|-------|

玉川村城林
長瀬主水
小名濱町中島
電話六二六番
佐藤醫院
冷林眞爲館
電話六二六番